

# ムカシの競馬を読む

平成19年・東京競馬場  
オーフス  
優勝馬:ローブデコルテ

© JRA



# 第140回 10年・20年・30年前の5月



# ムカシの競馬を読む



いまから10年前、平成19年の5月というと、ウオッカによる牝馬のダービー制覇が話題となつた月。その1週間前には、ダイワスカーレットの熱発によるオーナー回避で競馬マスコミはてんやわんやだった。5月17日付の紙面はどのメディアもそのコースで一色。いずれしても、桜花賞1、2着馬が不在のオーナークスということになつてしまつたわけだ。

そのオーナークスを制したのがローブデコルテ。コジーン産駒でやや距離が長いかもと思われたが、1番人気のベラレイアをハナ差し切つた。ただ、同馬はこれが結果的に最後の勝利となる。ライバル不在のワシンチヤンズを見事に射止めたということになる。

その少し前、この馬の種牡馬入りが発表されたのも同じ月のことだつた。5月9日付の中日スポーツから引用しよう。

「05年のベストマイラー、ハットトリ

ことになった。現在、厩舎で静養中のハットトリックは一旦、宮城県の山元トレセンへ放牧に出され、その後、海外へ向かう予定で掲示板を外していたハットトリックに良いオファーが来た状況だったが、これは呼んだ側にどうでも良い結果をもたらした。記事中にはアメリカとあるが、実際にはアメリカとオーストラリアで種牡馬生生活をスタート。北半球での初年度種付け料は1万5000ドルと高いものではなかつたが、受胎してフランスへ渡つた馬からフランスの年度代表馬・最優秀2歳牡馬のダビルシムが出たのである。

馬が1頭いるので、まだまだチャンスは残っている。  
同じ月からもうひとつ、聞けば  
「そんな話、あつたなあ」と思い出す  
出来事を紹介しよう。5月10日  
付のスポーツ二三から。  
「中央競馬に『あしながおじさん』  
ならぬ『あしながホース』が現れた。  
レースで稼いだ賞金を慈善団体へ  
寄付するプランが明らかになった。  
競走馬は、その名も『タイガーマスク』  
。児童養護施設のヒーローとして  
て戦う覆面レースラーを主人公にし  
た同名アニメから命名されたサラ  
ブレットが、チャリティ活動とい  
う使命を背負い、20日の東京競馬  
でデビューを迎える」

この手の企画は理想通りにいかないもので、タイガーマスクも前半は苦しんだ。デビュー戦9着のあと2,10,6着で勝てず岩手へ転出。しかしここからがプロレスぱりの逆襲で、岩手2戦2勝で出戻りを決めるべく、中央で500万条件に2回優勝してみせた。2勝といつても中央の賞金はデカい。出戻り前をあわせるとJRAでの本賞金は1890万円。馬の価格と比較するから安く見えるが、寄付のボリュームとしてはかなりのものだ。

続いているまから20年前、平成9年の5月。まずは次の出来事をご紹介しよう。5月13日付のサンスポから。

このときのセリには筆者も行っていたのでよく覚えている。当時はまだ市場取引馬の手当てがあつた時代だが、最高価格馬はその手当ての対象とはならない外国産馬だうた。5000万円を超える価格だったが、その馬は結局未出走のまま終わっている。

内国産馬のトップは1575万円でその馬は1勝。ただこのセリには「当たり」が2頭入っており、タガノノアーミージャとエーピーハルゴッヂの2頭が後に1億円を超える賞金を稼ぎ出している。

もうひとつ、ものすごく地味な話

だが当時は便利と思つた話。5月13日付のスポーツから引用しよう。  
「マークカードと投票券が生まれ変わる！」JRAは17日から新しくマークカードと投票券＝ジョイン投票券を導入する。これまでの投票方法では馬連で1枚、枠連で1枚のマークカードが必要なうえ、馬連などで6点以上購入するときは2枚以上に記入しなければならなかつた。これを解消するため新方式では、マークカードを表裏2面に記入できるようにして表で単勝、裏で馬連など異なる式別を選択、1枚の投票券として購入できるようにした」  
やれマルチだフォーメーションだという時代からするとなんのうちゅうやという話だが、当時としては画期的なタイプのユニット馬券だつた。  
この頃はまだワイルドもなく、馬連までの時代。ながし・ボックスのマークカードは既にあつたが、組番ごとに塗つていく需要もまだ多かつた。そこでは2券種を1枚の馬券でとか、1券種で10点というのはそれなりに便利だったのである。ただ、この「ジョイン投票券」という言葉は全く普及しなかつた。  
最後にいまから30年前、昭和62年の5月。この月は、あの馬が日本に帰ってきた月だ。5月26日の日刊

このころのシンボリ牧場はとにかく時代の先端を行つており、昭和63年には末出走のジユネーブシンボリをいきなり青葉賞でデビューやさせたり、平成3年にはジャムシードを日本で競走馬登録したあとフランスでデビューやさせ、4歳春に帰国させていきなり天皇賞春に使うなど、話題を振りまいたものである。いずれも大成功とはいかななかつたが、その発想力には四半世紀以上経つたいまでも驚かされる。

須田鷹雄 たかおだ

須田鷹雄 たかおだ